

平成24年度中間期の営業の概況(連結)

金融経済情勢

当中間期のわが国経済は、前半は公共投資の増加やエコカー補助金の効果等により国内需要が堅調に推移し、景気は緩やかに持ち直しましたが、後半は海外経済の減速等を背景とした輸出の減少やエコカー補助金の効果が一巡したこと等から生産が減少し、弱めの動きとなりました。

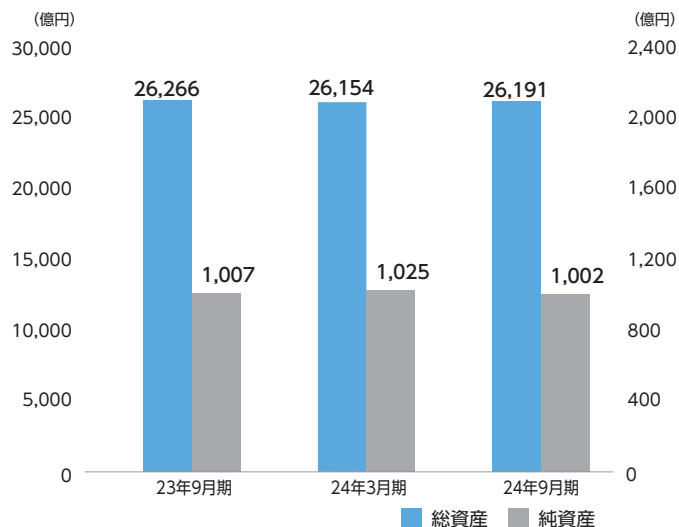
当行の主要地盤であります四国地区の経済におきましては、前半は生産の持ち直しや個人消費等に支えられ、景気は全体としては緩やかに持ち直しましたが、後半は生産に弱さがみられ、持ち直しのテンポが緩やかになりました。

金融面では、円・ドル相場は円高傾向となり、期首の82円台から9月末には77円台となりました。また、日経平均株価も弱い動きで推移し、期首の1万円台から9月末には8千円台まで下落しました。一方、長期金利は低下傾向となり、期首の1.0%台から9月末には0.7%台まで低下しました。

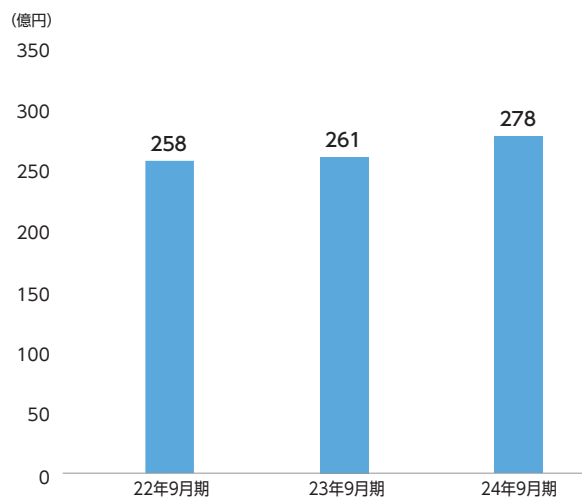
決算の概要

経常収益は、資金運用収益やその他経常収益は減少しましたが、国債等債券売却益の増加によりその他業務収益が増加し、前年同期比17億8百万円増加の278億54百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額や株式等償却の増加によりその他経常費用が増加し、前年同期比45億75百万円増加の251億8百万円となりました。この結果、経常利益は、前年同期比28億66百万円減少し27億46百万円となりました。中間純利益は、法人税等の減少により、前年同期比19億82百万円減少し16億8百万円となりました。

● 総資産と純資産



● 経常収益



● 経常利益と中間純利益

